

【幼・小連携の進め方】

1 幼・小連携の意義

幼児が幼稚園生活の中で育てられた心情，意欲，生活行動などを，小学校生活においても十分発揮させ，楽しく充実した学校生活が送れるように指導することが大事である。また，小学校では幼稚園の教育内容を有効に生かした指導の工夫が必要である。

そのためにも，幼稚園と小学校それぞれの独自性と連続性について，教師同士が相互に理解し合う場や機会を意図的に設けることが大事である。

幼稚園教育要領(平成 10 年 12 月 14 日)

第 1 章 総則 2 幼稚園教育の目標

幼児期における教育は，家庭との連携を図りながら，生涯にわたる人間形成の基礎を培うために大切なものであり，幼稚園は，幼稚園教育の基本に基づいて展開される幼稚園生活を通して，生きる力の基礎を育成するよう学校教育法第 7 8 条に規定する幼稚園教育の目標の達成に努めなければならない。

第 3 章 1 一般的な留意事項

(8) 幼稚園においては，幼稚園教育が，小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し，幼児期にふさわしい生活を通して，創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすること。

幼稚園教育要領解説(平成 11 年 6 月)

第 3 章 指導計画

第 2 節 一般的な留意事項

7 小学校教育との連携

幼稚園から小学校への移行を円滑にすることが求められる。特に低学年においては生活科を中心として，具体的な体験を重視した活動が行われる。そのことにより，幼稚園から小学校への総合的な指導の流れが一貫したものとなるのである。このような円滑な接続は，幼稚園と小学校の教師が互いの教育の在り方について，十分に理解することによって初めて可能になることである。特に，新しい小学校学習指導要領では，第 1 章総則において，小学校と幼稚園との間の連携や交流を図ることが明確に示されている。幼稚園と小学校との間で合同の研究会や研修会を進めたり，互いの教育の様子を参観したり，幼児や児童が行事などで交流したりするといったことを積極的に行うことが大切である。

幼児教育振興プログラム(平成 13 年 3 月 29 日)

ア 幼稚園教育の展開に当たっては，集団生活を通じて，幼児一人一人の発達に応じ，主体的な活動としての遊びを通して総合的な指導を行い，「生きる力」の基礎や小学校以降の学校教育全体の生活及び学習の基盤を培うという基本に立って，教育活動及び教育環境の充実を図る。

ウ 幼稚園教育と小学校教育との間で円滑な移行や接続を図る観点に立って、幼稚園と小学校の連携を推進する。

エ 幼稚園と保育所は、各々の目的と役割を有するとともに、双方とも小学校就学前の幼児を対象としていること等を踏まえつつ、両施設の連携を一層推進する。

2 幼稚園(保育所)・小学校の連携・接続の視点

- (1) 小学校に入学した子どもの実態に即した学級づくり
 - ・ 就学前教育との連携・協力を強化し、必要な情報交換(その子のよさ、発達の様子や課題など)をする。
 - ・ 教育内容のつながりにおいて、教育目標・めざす子ども像の連続性と共通性を図る。
- (2) 幼稚園と小学校の連携や交流の機会の充実
 - ・ 幼稚園と小学校のすべての教師による互いの教育の在り方を理解する連携・交流を図る。
 - ・ 幼児と児童がともに学び合える互惠性のある交流が大切である。
合同の研究会や研修会、相互参観、合同行事等
教員間、幼児・児童間、保護者間の交流
- (3) 幼稚園での幼児期にふさわしい遊びから低学年の生活科の学習へ
 - ・ 幼稚園から小学校への総合的な指導の流れで、幼稚園から小学校への円滑な移行を進める。
 - ・ 幼児期の学びの過程は、小学校の生活科や総合的な学習の時間の学習過程に通じるものがある。
異年齢・異世代交流の推進
- (4) 家庭・地域社会の理解・協力
 - ・ 遊び・学びの出会いにおいて、身近な地域社会の自然・もの・人との出会いが重要で、身近な地域社会との出会いは、子どもたちの学習や生活を豊かにする。

幼稚園と小学校のそれぞれの教員が子どもに対する共通の認識をもち、互いの教育に対して理解を深めることが重要である。

3 幼・小の交流・連携のポイント

- (1) 総合的に展開される学習活動

ア 幼稚園

〔・ 心身の健康に関する領域「健康」〕

- ・ 人とのかかわりに関する領域「人間関係」
 - ・ 身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」
 - ・ 言葉の獲得に関する領域「言葉」
 - ・ 感性と表現に関する領域「表現」
- 5領域におけるねらい及び内容が、遊びを通して総合的に展開される。

イ 小学校生活科

身近な社会や自然を一体的に扱い、具体的な活動や体験を通して、学習活動が展開される。

(2) 遊びの重視

子どもは遊びを通して、自分の思いや願いを実現し、満足感を得たり自分らしさを出したりする。

ア 幼稚園における遊び

園生活全体を通して、幼児の興味や関心に即して展開される。

イ 生活科の目標と内容にそって具体的な活動が構成され、指導計画に位置付けられる。遊びも学習である。

ウ 幼・小の関連性を考慮した遊び

- ・ 自分の意志で活動し、主体性をもってできる遊び
- ・ 子どもの発想や思いの連続性のある遊び
- ・ 身体表現や言語活動など具体的な活動を通して、感性や表現力が豊かになる遊び

(3) 子どもが主体的にかかわる学習活動

(4) 子どもの個性に応じた指導の重視

感じ方，見方，生活環境，生活体験の差異を考慮

(5) 活動時間の弾力的運用

4 教育内容・教育方法での連携

活動例

(1) 遊びへの招待～一緒に遊ぼう・歌おう

- ・ おもちゃ広場
- ・ コンサート
- ・ 遊びランド

(2) 探検しよう

- ・ 幼稚園へ行こう
- ・ 小学校へ行こう
- ・ 森を探検しよう

(3) おまつり・パーティをしよう

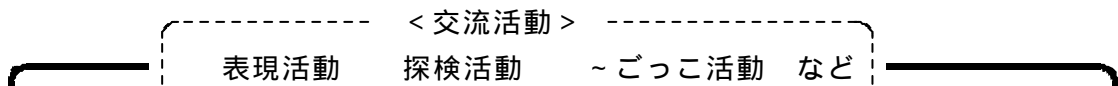
- ・ おみこしわっしょい
- ・ おいもパーティ
- ・ 野菜パーティ

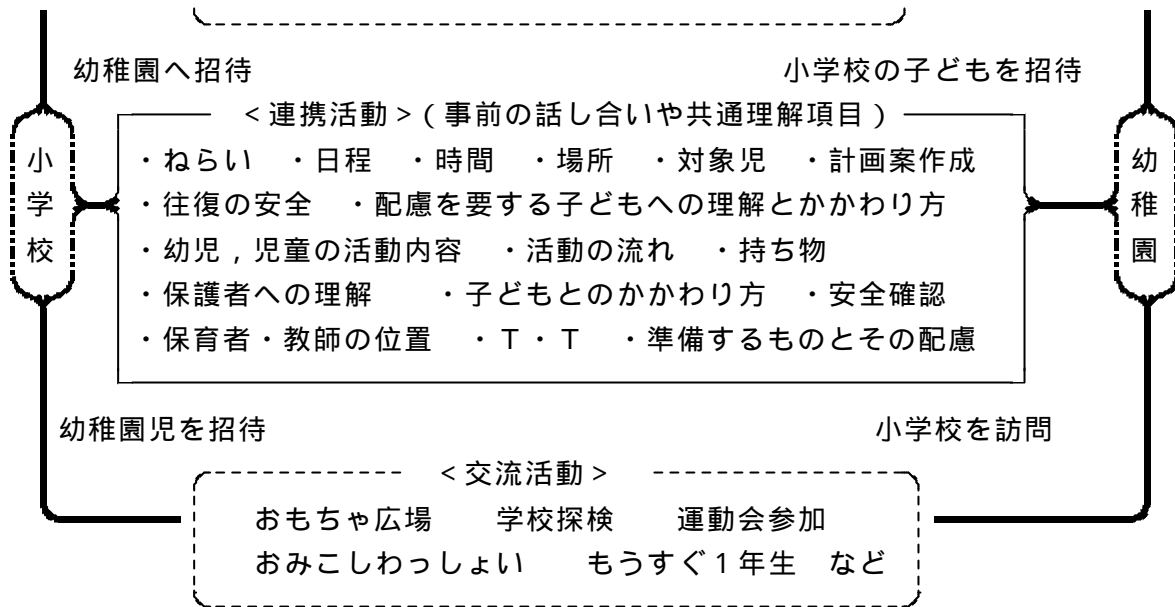
(4) 発表会をしよう～音楽会・展覧会

(5) おいでよ小学校へ

- ・ 運動会
- ・ 体験入学
- ・ もうすぐ1年生

交流・連携のポイント





交流活動では、保護者や地域の高齢者の参加の場や機会を設ける。

段階的・継続的交流を進める。

事前・事後の打ち合わせや連絡を綿密にする。(参加者や協力者へお礼や報告も)